

令和元年度第4回京都市はぐくみ推進審議会 摘録

日 時 令和2年1月28日（火）18：30～20：30

場 所 京都平安ホテル 1階 平安の間

出席者 安保千秋会長，川北典子副会長，石塚かおる委員，稲川昌実委員，井上直樹委員，植松明彦委員，大橋憲宏委員，小谷裕実委員，杉原颯太委員，長澤敦士委員，西恵味委員，初田幸隆委員，柗あずさ委員，升光泰雄委員，松山廉委員，水野菜々委員，矢島里美委員，山本智也委員，山本奈未委員（19名）

欠席者 雨宮万里子委員，石垣一也委員，埋橋孝文委員，岡美智子委員，川中大輔委員，木村友香理委員，徳岡博巳委員，中川佐和子委員，野田正人委員，藤本明美委員，松田義和委員（11名）

次 第

1 本市挨拶

2 議題

「京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）」の策定について

(司会：和田 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課課長)

事務局	<p>【議題】 「京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）」の策定について</p> <p>資料1 「京都市はぐくみプラン(京都市子ども・若者総合計画)(案)」に関する市民意見募集の結果について（速報値）</p> <p>資料2 社会的養育の充実を図るための計画内容の修正について</p> <p>資料3 計画冊子（案）</p> <p>資料4 計画冊子（概要版）（案）に基づき説明</p>
長澤委員	<p>最もパブリック・コメントの意見が多かった分野が分かれば、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>分野では、「幼児教育・保育」についての御意見が260件ほどで、一番多かった。</p> <p>また、分野ではないが、「計画の趣旨」について440件ほどの御意見があり、全体で一番多かった。</p>
長澤委員	<p>資料3の48ページにおいて、進捗状況を示す指標が掲げられているが、これは確定なのか。</p>
事務局	<p>あくまで案として、本日委員の皆様にお示ししている。</p>
長澤委員	<p>各指標が計画のどの部分を測っているかを分かるようにするといいいのではないか。</p> <p>また、京都市はぐくみアプリダウンロード数を指標に掲げているが、そうであるならば、計画冊子にアプリをダウンロードするためのURL等が掲載されるべきではないか。</p>
事務局	<p>指標が計画のどの部分と関係しているのかは、こういった形でお示しするのがいいか、検討させていただきたい。</p> <p>なお、本計画の施策の体系の3つの柱のうち、2つ目の「特に支援を要する子ども・若者やその家庭への支援」に関しては、あえて指標を設定していない。例えば、児童虐待の通告件数について、増えた方がいいのか、減った方がいいのか、色々な捉え方があり、設定すること自体が難しいという考えから見送っている。</p> <p>はぐくみアプリのダウンロード数を指標に設定している趣旨は、3つ</p>

	<p>目の柱の中の、社会環境との関係で、子育て家庭に対する情報提供は重要と考えており、設定したものである。</p> <p>計画冊子にアプリをダウンロードするためのURL等が掲載されていないことに関しては、御指摘のとおりであり、対応させていただく。</p>
長澤委員	<p>アプリは、誰でもダウンロードができて、ダウンロードしたらほぼ減ることはない。これを指標にすることについては作為的にも見える。</p>
安保会長	<p>こういった指標を設定した方がいいという御意見はあるか。</p>
長澤委員	<p>前回の全体会議の時に指標を考えなければいけないという話題提供があり、議論する場があるかと思っていたが、急に指標の提案があったため、現時点で代替案はない。</p>
井上委員	<p>プランに数値目標を掲げられると、それに向かって進めないといかないという気持ちとなる。</p> <p>資料3の5ページの柱2にあるように、6,479人分の受入枠を確保し、年度当初の待機児童ゼロを6年間も続けられたのは、各施設へしっかりと補助していただき、また小規模保育も多く作っていただいた結果だと思う。</p> <p>一方、既に施設が十分確保できているところとできていないところとはっきり分かれてきており、定員割れする地域も出てきている。先般、京都市保育園連盟の方で調べたところ、加盟園の約30パーセントが、10月になっても定員割れをしている。まだまだ作らないといけない地域もあれば、これから施設を作らなくても十分な地域もある。</p> <p>そういう中において、本計画においても待機児童ゼロの継続を目標にすることは理解できるが、その部分は踏まえるべきと思う。</p> <p>また、多くの子どもの保育をすることは、それだけ職員がいるということである。今、我々の保育園、認定こども園で一番の課題は職員確保である。京都市の処遇は非常にいいし配置基準もいい。しかしながらそれは他の市町村に比べ、多くの職員を配置しないとイケないということでもある。障害のある子どもの保育に関しても、多くの職員がいてこそできるものである。</p> <p>数値だけ見る限り京都市は非常にすばらしいが、現場のサイドから見ると、非常に大変である。潜在保育士や学生等々を確保できても、一部の方はフルタイムでは働くことは無理である。夫の扶養家族から外れない範囲程度の時間帯で働くことを前提に、ローテーションに入ることはできず、完全な週休2日制ならば働きます、というような人たちも段々</p>

事務局	<p>増えている中、どうしても一部の職員に負担が集中し、今度はその職員が持たなくなってしまう。</p> <p>そういった部分をしっかり見ていただいて、職員の確保に関しては、京都市独自の補助や確保の策を練っていただくことを、計画に明記できないかと思う。</p> <p>資料3の38ページでは、京都市を35の提供区域に分け、ニーズ調査結果等を踏まえて、それぞれの区域で今後5年間、保育の整備が必要かどうかを算出している。</p> <p>現行計画では、山間部以外は、ほとんどの提供区域で必要という状況だったが、現在、35の提供区域の中で必要なのは16箇所とかなり減ってきている。委員からも指摘があったとおり、十分な供給量があるところと、まだ必要なところで分かれてきているという状況である。そういったことを踏まえ、今回の事業計画においては、39ページにも記載しているとおり、既存の保育園、認定こども園の増築、増改築、分園設置や、幼稚園における2歳児接続保育など、既存施設の活用でどうしてもやっていけない場合のみ、施設を創設していくという考え方をしている。長い歴史の中で京都の保育を支えていただいたのが、保育園・幼稚園であり、それぞれ創意工夫していただきながら運営いただいている。将来、保育園がつぶれることなく、継続できるような形にしていきたいと考えている。</p> <p>保育士の確保については、5ページ、重点1の柱2で幼児教育・保育の充実と支援の質の確保について記載しており、保育士資格の新規取得者の確保、潜在保育士の再就職支援、就業継続支援の3つの観点から、保育の担い手確保の総合的な取組を進めていこうと考えている。</p> <p>この間も、保育園連盟と一緒にあって保育園の就職フェアや宿舍借上事業など、考えられることはすべて手を打ってやっている状況だが、年々人材確保が厳しくなっており、今後も色々と創意工夫をしながら、関係団体とともに取り組んでいきたい。</p>
井上委員	<p>計画の概要版に掲載されているイラストの中に地藏盆の数珠回しの絵が載っているが、これについては政教分離の観点で問題はないのか。</p>
事務局	<p>政教分離の趣旨は当然理解をしているが、地藏盆については、宗教行為ではなく、習俗的なものであると理解しており、現在も残る京都の伝統行事として掲載したものである。他の宗教に対する圧迫や、仏教を助長するようなものであるという認識はない。</p>

<p>安保会長</p>	<p>京都の地蔵盆は地域の行事になっていると思う。イラストを拝見させていただいたが、男女の大きさ、書き方、子育てをしている男女の比率など、色々と配慮したものになっていると思う。</p>
<p>升光委員</p>	<p>多くのパブリック・コメントが寄せられたことは喜ばしいことである。同時にそれがこまめにプランの中に反映されているのはすごく素敵なことだと思う。</p> <p>イラストについては、非常にいいと思う。地蔵盆は、京都の文化、子どもが育つうえでの文化だと思うので、気にならない。</p> <p>井上委員が話された切実な保育の現場の状況や保育士確保の問題は、未来の社会の問題でもある。</p> <p>教員養成、保育士の養成又は確保というのは社会的なことであり、施設の問題ではないと思う。取組として書かれていることが、具体的にどう実行していくのかが本当に大切なことかと思う。</p> <p>所管は京都府になるが、私立幼稚園も同じ状況がある。</p> <p>③の保育士確保に係る取組に、幼稚園の担い手確保の取組を追加いただけるとありがたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>幼稚園教諭も、人材確保が大変であることは当然認識している。記載はされていないが、幼稚園協会への運営補助なども引き続き取り組んでいきたいと思っている。そういう中で、私立幼稚園協会が主体となって行った、就職説明会である幼稚園フェアにおいて、京都市からも講演させていただくなど、この間、一緒に取り組ませていただいた。取組の追加については検討させていただく。</p> <p>保育士の確保も、年々大変になっている。平成31年3月時点で、京都市内の認可の保育園や認定こども園で働いている先生は6,800人ほどおられる。この数は1年前に比べると300人ほど増えており、新たな受入枠よりも多くの保育士が確保できているが、年々厳しくなっている。京都市の幼児教育・保育の質の確保に向け、引き続き取り組んでいきたい。</p>
<p>矢島委員</p>	<p>資料3の14ページ、重点6、柱2の主な取組の②で、働き方改革を推進することが挙げられている。ここ数年、企業でも教育・保育現場でも、具体的に働き方改革をどうしていけば良いのか、色々と悩みながら方法を模索しているところである。</p> <p>現在、保育利用申込みの選考の時期に入っているが、保護者は入所したい一心で京都市のポイント制の高得点が得られるような働き方をされている。就労時間や就労日数を伸ばすなど、できるだけ自分のポイント</p>

	<p>を上げるための工夫をされている現状を目の当たりにしている。そういった中で、49ページに掲載された本審議会の提言の5の部分には、私たち保育を行う者の思いが詰まっている。次の社会を担う子どもたちを育てていく私たち自身が毎日生きがいを持って働くために、保育を行う者、保護者、そして社会がどう協力体制を取ればいいのか、計画にも明記されると嬉しい。</p>
事務局	<p>保育の利用申込みにおいては、受入枠に対してそれを上回る申込みがある中で、保育の必要性の高い順から入園をしていただく必要があることから、保育の必要性を点数化するためにポイント制を導入しており、週当たりの勤務時間が長ければ長いほど高得点になる。</p> <p>このポイント制については、保育園連盟からも、毎年見直しについて御意見を頂いており、例えば、育児時間を取っている場合でも、取得前の就労時間で算定するなど、少しでもワーク・ライフ・バランスが保てるような見直しをできる限り行ってきている。また、保護者の方になるべく家庭での保育に御協力いただくメッセージも、発信させていただいており、引き続き取り組んでまいりたい。</p>
安保会長	<p>働き方改革については、どの職場でも試行錯誤の中でやられているところなので、社会全体で考えていくことではないかと思う。</p>
初田委員	<p>資料3の本冊（案）を分かりやすく説明しているのが、イラスト入りの資料4の概要版（案）であると思う。</p> <p>子どもの教育環境については、資料3の本冊（案）の18ページで詳しく記載されており、19ページの主な取組には、パブリック・コメントを踏まえ、英語教育、プログラミング教育などが盛り込まれるなど、AIが入ってくるこれからの時代を生き抜いていく子どもたちを育てるというメッセージがある。しかしながら、資料4では、その部分が非常に弱いように見える。</p> <p>また、計画全体の進捗状況を示す指標のうち、教育に関するものは茶道・華道体験のみである。これは、京都市ならでの伝統文化をどのように子どもたちに引き継ぐかという一つの指標ではあると思うが、これからの社会を生き抜いていく子どもたちを育てることを子どもの教育環境の主眼とするならば、指標との繋がりが見えない。</p> <p>概要版だけを見た方は、施策の体系と指標の関係が読み取りにくいのではないかと思うので、工夫が必要である。</p>

事務局	<p>教育の部分についてももう少し筋道が見えるような記載にしたらどうかという御指摘を頂いた。具体的にこういった形で反映できるか分からないが、できるだけスムーズに読めるような形になるよう検討する。</p>
安保会長	<p>審議会では、指標に関して、御議論いただく機会が少なかった。しかしながら、計画については今年度内に策定する必要があるため、指標については、今日頂いた御意見を踏まえ、事務局と私の方で協議をさせていただき、改めて検討したうえで確定していきたいと思うが、そういった進め方で御了解いただけるか。</p>
審議会委員	<p>(異議なし)</p>
安保会長	<p>それでは、そのように進めさせていただく。</p>
山本（智） 委員	<p>青少年に係る指標については、一任させていただくが、青少年の附属機関等への登用割合を2.5ポイント上げることが、京都市のはぐくみ文化を更に深化させるための指標として適切なのかよく考えていただきたい。この指標については、ほぼ到達しているものと見ている。はぐくみ文化をさらに深化するために、頑張って数字を上げていこうというメッセージが伝わってこない。青少年のユースサービスの理念のもとに、夢と希望を持ってライフデザインを描けるような取組を更に充実する指標とは何か、改めて御検討いただければと思う。この指標が総じて目指すものではなく、もう私たちはできているというメッセージにも読み取れてしまう懸念を持っている。</p>
事務局	<p>青少年の附属機関等への登用割合は、現在の京都市ユースアクションプランでは、20%が目標であり、これは京都市のすべての附属機関等を母数とした割合である。しかしながら、附属機関等には、極めて専門的な分野を審査するものもあり、専門性で委員を選定するという側面もあるため、青少年を入れることが非常に難しい附属機関等もある。したがって、今回、指標を立てるに当たっては、青少年の登用が難しい附属機関等は、今回対象から除外させていただいた。</p> <p>そのうえで、改めて登用割合を見てみると、現状は47.5パーセントである。これを、まずは少なくとも半分程度まで上げていこうというのが今回の趣旨である。</p>
山本（智） 委員	<p>登用可能な附属機関等が母数なのであれば、登用率100パーセントを目指すべきではないか。この指標が何を目指しているかということ</p>

事務局	<p>十分検討いただきたい。</p> <p>これまで様々な努力をして、登用割合を伸ばしてきており、それにより、青少年の意見が市政に取り込まれ、政策にいかすことができる。青少年に係る指標として大きなものだとして認識しており、決して無駄な目標ではないとは思っている。目標値については、実現可能性も含め、改めて検討させていただく。</p>
小谷委員	<p>改めて計画を読み返して、すばらしい内容であり、本当にこれができたら京都市はすごいと思う。容易ではないが、これを目指していくことはとてもいいと思う。</p>
川北副会長	<p>先ほどの保育士の確保について、養成する大学の立場としては非常に責任が重いなどと思いながら聞いていた。大学も定員割れに苦しんでいる。私が学生に保育士を目指そうと思ったきっかけを聞くと、中学、高校での保育体験という理由が多い。もう一つ、母親や父親、親戚の人から、とてもやりがいのある仕事だと聞いて、その仕事に就きたいと思ったという学生も多くいる。できるだけ早い時期に、保育の仕事が面白いということを見せて、体験できる仕組みを学校の中で作っていったらと思っている。</p> <p>また、全小中学校で茶道・華道体験をするということだが、具体的にどのように行われるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>中学校と高校では、保育現場での職業体験という取組があり、1～2年前に3年未満の保育士の方に行ったアンケートの結果では、この取組がきっかけで保育士を目指したという方も多くいらっしゃった。そういったことを踏まえて、養成校だけではなく、高校生もターゲットに入れ、京都の保育の魅力ややりがいなどをアピールするなど、将来を見据えた取組もやっていきたい。</p> <p>なお、京都市だけではなく、京都府、保育園連盟、府の保育団体、保育協会の4者でも色々と取組を行っていただいている。</p> <p>また、小中学校における茶道・華道体験は、文化を軸とした市政を展開する一環として、我が国の伝統文化をいかし、それを尊重する態度を育成するため、小学校段階では茶道、中学校段階では華道をすべての生徒に体験してもらおうという趣旨の事業である。</p> <p>具体的には、茶道・華道を専門にされている方に御指導いただくという形で、特別活動や総合的な学習の時間、あるいは道徳の時間を活用して行っている。</p>

石塚委員	<p>社会的養育については、社会的養育ビジョンを国が出しており、それに沿って市としてどのような計画を立てるかというものである。しかしながら、国の方が具体的に示していないところも多く、矛盾もある中で、検討においては非常に苦慮し、数値も一部見直した。</p> <p>里親を増やすということで、施設としては岐路に立たされているので、今後も京都市と一緒に協議を重ね、見直しを行いながら、代替養育が必要な子どもたちをどのように支援していくのか、考えていきたい。</p>
事務局	<p>国の目標が非常に高い中で、これまでの京都市の方針とは正反対の方針となっており、御理解・御協力いただいていることに感謝申し上げる。</p> <p>大きな転換なので、例えばショートステイの数値を上げて在宅での養育力を支えていくであるとか、2桁あるいは1桁にとどまっている養育里親を児童相談所の体制も含めてやっていきたいと思っている。ただ、これまで施設で支えていただいた実績や、その取組の多さというのは変わらないと思っており、関係団体と協議や検証を行いながら進めていきたい。</p>
松山委員	<p>今回のパブリック・コメントでは、若者が約半数の意見を出しているが、出された意見については、公開されるのか。今後、京都市ユースサービス協会が、京都市はぐくみプランに基づいて事業を実行するに当たり、若者たちが計画案を読んでどういう風感じたかを知りたい。</p>
事務局	<p>松山委員におかれては、青少年活動センターでのパブリック・コメントの周知やワークショップの開催など、御協力いただき、感謝申し上げます。</p> <p>若者からの意見については、必ずしも若者支援に関するものが多かったというわけではなく、例えば幼児教育・保育についても多数意見が寄せられている。</p> <p>個別の意見についても一覧にまとめて公表をする予定なので、また御覧いただけたらと思う。</p>
西委員	<p>京都市はぐくみプランの取組が全部実現できたら本当にすごいと思う。私は、このプランを見て、わくわくする気持ちになり、未来が明るくなることを感じた。子どもの権利条約や京都市憲章が掲載されているが、親としてははっとさせられるような内容もあり、改めて子どもを育む環境を親も整えていかないといけないということを気付かせられた。今後、各取組が具体的になったときに、それが残念なものでなけ</p>

	<p>ればいいなと願っている。</p> <p>例えば、資料3の18ページの主な取組⑥番の「外国にルーツを持つ親とのコミュニケーション確保をはじめとした支援」については、コミュニケーションを取ることだけでなく、寄り添ってくれていることを家族が実感できたり、子育ての見通しが持てて安心できるなどの支援が、本当に必要なものだと思う。</p>
事務局	<p>まずは意思疎通ができないと、寄り添い支援も進まないため、コミュニケーション確保をはじめとした支援とし、文言も広がりを持たせている。具体的な取組については、今後検討を進めていかなければならないと思っている。</p>
山本（奈） 委員	<p>こうやって意見を出し合い、すばらしい京都市はぐくみプランを作り上げていくことは本当にいいことだと思う。親としても、今後親となる方にとっても、妊娠期から切れ目のない支援というのはとても心強いものだった。</p> <p>保育士の先生の負担はすごく大きいので、保育の担い手の確保は力を入れていただけたらと思う。</p>
杉原委員	<p>施策の体系に3つの柱があることがこのプランの特徴であり、凄いと ころだと思うので、資料4の概要版（案）の13ページ、施策の体系の 3つの柱はもっと強調してもいいのではないかと。</p> <p>また、パブリック・コメントをいただいた方々への謝辞があれば、意 見を出した人は嬉しいのではないかと。</p>
安保会長	<p>本日頂いた御意見の趣旨をできるだけいかにさせるよう、事務局と私の方 で細かいところは詰めさせていただく。</p> <p style="text-align: right;">（以上）</p>